

カリキュラム

本専攻の開講科目は、(1) 演習科目、(2) 講義科目、(3) 修士論文指導により構成されています。以下、その概要について説明します。

(1) 演習科目

各科目テーマについて、履修した院生による発表や討論により学びを深めます。社会福祉に関する基礎や研究を進める上での基礎について学ぶ「基礎分野」に 10 科目、社会福祉の政策論、計画論、実践・援助論などについて学ぶ「専門分野」に 13 科目を配置しています。

(2) 講義科目

社会福祉に関する基礎的知識をはじめ、保健・医療・福祉に関する実践的な知識など幅広いテーマの講義を 15 科目配置しています。

(3) 修士論文指導

1 年前期の「社会福祉方法論演習 I」(必修科目)の授業において、研究テーマの設定や研究方法論についての指導を受け、各自の研究テーマおよび研究計画を固めます。その上で前期の終わりに、院生本人の希望をもとに修士論文指導教員を決定します。

修士論文の最終提出までの間に、修士論文にかかわる小論文を三度提出するとともに、2 年の 6 月には修士論文中間報告会を行うことにより、修士論文の完成にむけて着実に進捗できるようにしています。

履修・研究・修士論文執筆の進め方

□1年次

1年生では、講義科目や演習科目の履修を通じて幅広く専門関連領域に関する学習を進めるとともに、研究の進め方、研究計画書の書き方、研究方法についての学習を行う。また、先行研究のレビューを進め、該当分野の研究の到達点や代表的な研究方法について学びながら、自分の取組もうとしている研究の意義、研究テーマ、研究計画、研究方法等についてより明確なものにするなど、2年次からの修士論文執筆に向けた基礎的研究活動に当たる。

本課程では、院生がこれらの取り組みを円滑かつ順調に進められるよう、通常の専門科目以外に、研究方法論科目や修士論文指導科目などを設けて教育を行うとともに、研究計画書や小論文の提出、報告会での発表などを通じて、院生個々人の研究の進捗を個別的かつ組織的に把握しながら指導を行っている。（院生も、各研究プロセス・指導を通じ、自身の研究の進捗の確認を行う）

1-1) 「社会福祉研究方法論Ⅰ」（毎年前期開講・必修科目）

専門的に社会福祉研究に取り組むための基礎科目群である「基礎分野」に配置する1年生必修科目として、以下の3つの柱の教育を行う。

- ①各院生の「研究計画書」の添削指導・公開添削(基準は3回)。
- ②論文の書き方～研究方法論を、テキストを用いて指導する。
- ③院生の希望を尊重した上で、適当と思われる指導教員を紹介するなど、院生が前期中に指導教員希望を決められるように援助する。

1-2) 研究計画書の提出 5月下旬

「研究計画書」の添削指導・公開添削等をおこなう「社会福祉研究方法論Ⅰ」の履修を進めるなかで、当該科目担当教員の指導を受けて当初(出願時)の研究計画をさらに練り上げ作成します。

特に指定しないが、構成は、研究テーマ・研究概要・問題意識と研究目的・研究計画と方法・期待される成果等をまとめるとよい。

1-3) 指導教員の決定と「修士論文指導Ⅰ」の履修開始 9月(後期)～

1年次後期に指導教員が決定し、指導が始まります。

修士論文指導は、指導教員と院生との間で日程調整をおこない進められますので、各自、指導教員に相談してください。

1-4) 「社会福祉研究方法論Ⅱ」（毎年後期開講・受講推奨科目）

1-5) 小論文①の提出 9月下旬

◆執筆課題

先行研究にふれながら、研究テーマと問題意識について論じなさい

※本課題の目的は、研究テーマに関連する先行研究の把握／検討と今後の課題の析出にある。

構成は、1. 問題意識と研究目的 2. 先行研究の概観 3. まとめ：今後の課題、引用文献といった形で書くとよい。

◆執筆要領

①第1ページ目・本文

研究テーマ(40字以内)、提出者の専攻名・課程・学籍番号・氏名を明記すること。

また本文には適宜見出しを付けること。

②小論文の字数など

10,000字程度 ※ワープロを使用しA4用紙40字×40行程度の設定を目安とする。

③文献リスト

小論文末に文献リストをつけること。引用する先行研究・関連研究の文献数を**最低5本以上**とする。
文献の記載方式は、日本社会福祉学会の機関誌『社会福祉学』の新方式(Vo1.43-1:240)に準拠すること。

④文体

である調で統一する。

⑤その他

本文に文献を引用する場合は、そのことを明記すること。

1-6) 中間報告会での発表 10月中旬

時間は1人あたり15分(発表10分/質疑応答・討論5分)を予定し、社会福祉学研究科内(院生・教員)で公開とします。

発表者は事前に、当日の報告資料として※A4用紙片面で3枚以内(4,000字以内)にまとめたものを提出することになります。

※図・引用文献・注は字数に含めなくてもよいが、A4用紙片面で3枚以内とすること。

1-7) 小論文②の提出 2月下旬

◆執筆課題

先行研究にふれながら、研究テーマ、問題意識および研究方法について論じなさい。

構成は、

1. 問題意識と研究目的
2. 先行研究の概観と本論文の研究課題
3. 研究方法と対象
4. まとめ：今後の課題、引用文献

といった形で書くとよい。

◆執筆要領

①第1ページ目・本文

研究テーマ(40字以内)、提出者の専攻名・課程・学籍番号・氏名を明記すること。

また本文には適宜見出しを付けること。

②小論文の字数など

15,000字程度 ※ワープロを使用し、A4用紙で40字×40行程度を目安とする。

③文献リスト

小論文末に文献リストをつけること。引用する先行研究・関連研究の文献数を**最低10本以上**とする。

文献の記載方式は、日本社会福祉学会の機関誌『社会福祉学』の新方式(Vo1.43-1:240)に準拠すること。

④文体

である調で統一する。

⑤その他

本文に文献を引用する場合は、そのことを明記すること。

1-8) 合同修士論文発表会への出席 3月上旬

修了生の論文報告を聞き、自身の研究・論文の取組みへの参考にする。

□ 2年次

2年次では、1年次に行った専門科目の学習、および研究方法、先行研究、論文執筆等に関する学習・研究を踏まえ、自身の研究テーマ・方法論等に基づく研究を更に進め、修士論文の執筆を行う。

本課程では、2年次においては、院生個人の研究に合わせたより個別的な指導を強化しているが、1年次と同じく、研究と論文執筆における各プロセスに、研究科としての組織的な進捗把握と指導を行えるよう教育課題・行事を設けている。

2-1) 「修士論文指導Ⅱ」の履修開始 4月～

2-2) 修士論文計画書の提出 4月下旬

1年次の研究進捗状況を検証・総括し、2年次の研究(執筆)活動を展望します。

特に指定しないが、構成は、研究テーマ・研究概要・問題意識と研究目的・研究計画と方法・期待される成果等をまとめるとよい。

2-3) 修士論文中間報告会での発表 6月中旬

この中間報告会は、単に研究の願望や決意表明等を行う場ではなく、基本的に**研究の進捗、とくに論文執筆の進捗を報告し、多くの参加者からの批判を仰ぐ場**である。したがって、これまでに何を成し遂げ、今後何をどのように詰めるかを報告しなければならない。具体的には、論文の全体構成、先行研究の総括、分析や検討の途中経過、現段階での自分自身の仮説や見解などについて述べる。

時間は1人あたり15分(発表10分/質疑応答・討論5分)を予定し、社会福祉学研究科内(院生・教員)で公開とします。発表者は事前に、当日の報告資料として※A4用紙片面で3枚以内(4,000字以内)にまとめたものを提出することになります。

※図・引用文献・注は字数に含めなくてもよいが、A4用紙片面で3枚以内とすること。

2-4) 小論文③の提出 9月下旬

◆執筆課題

研究進捗状況についてまとめなさい

※本課題の目的は、学位申請論文の土台部分を一定程度完成させることにより、本提出に向けた作業をより円滑にするためである。論文の構成は、学術論文の構成に順ずるものとする。

◆執筆要領

①第1ページ目・本文

研究テーマ(40字以内)、提出者の専攻名・課程・学籍番号・氏名を明記すること。

また本文には適宜見出しを付けること。

②小論文の字数など

20,000字程度 ※ワープロを使用し、A4用紙で40字×40行程度を目安とする。

③文献リスト

小論文末に文献リストをつけること。引用する先行研究・関連研究の文献数を**最低20本以上**とする。

文献の記載方式は、日本社会福祉学会の機関誌『社会福祉学』の新方式(Vo1.43-1:240)に準拠すること。

④文体

である調で統一する。

⑤その他

本文に文献を引用する場合は、そのことを明記すること。

2-5) 修士論文【第1次提出】 12月上旬

この修士論文【第1次提出】は、最終提出の前段階に学位授与審査委員(主査・副査)予定教員による査読と指導を受け、一定水準以上の修士論文の最終的完成を図るためのものである。このプロセ

スでの指導をより有効なものするためには、できるだけ第1次提出の論文を完成版に近いものを提出し、それについての査読・指導を受けることが求められる。

《提出書類》

- | | |
|------------------------|----------------------|
| ①修士論文審査願書<第1次提出>(所定様式) | 1部 |
| ②修士論文 | 正本1部、および副本[正本のコピー]2部 |
| ③修士論文要旨 | 3部 |

2-6) 修士論文報告会での発表 12月中旬

この報告会は、修士論文【第1次提出】と同様、自身の修士論文について、最終提出の前に、広く研究科の教員や他の院生による評価や助言を仰ぎ、より質の高い論文の完成を期すためのプロセスである。院生は、主査・副査予定教員による指導とともに、このプロセスにおける助言等を踏まえ、最終提出に向け、修士論文の最終的な修正と完成を行うこととなる。

時間は1人あたり20分(発表10分/質疑応答・討論10分)を予定し、社会福祉学研究科内(院生・教員)で公開とします。当日の資料は、修士論文第1次提出時の修士論文要旨を使用します。

2-7) 修士論文【最終提出】 1月上旬

正式には、これは修士学位授与申請手続きであり、指導教員による最終的な確認と承諾と署名を得た上で、所定の申請書類を整え提出する。当該申請後、修士論文の書き換え、関係書類・資料の追加等は一切認められない。

《提出書類》

- | | |
|-----------------|----------------------|
| ①修士論文審査願書(所定様式) | 1部 |
| ②修士論文 | 正本1部、および副本[正本のコピー]3部 |
| ③修士論文要旨 | 4部 |
| ④履歴書・研究業績書 | 4部 |
| ⑤修士論文の複写に関する許諾書 | 1部 |
| ⑥誓約書 | 1部 |

2-8) 修士学位授与審査：口頭試問 1月下旬

口頭試問は学位授与審査の一環として、審査委員会(主査1名・副査2名)が、修士論文及び関連事項についての質疑応答をおこなう。1人あたりの時間は約30分の予定。

【口頭試問の2つの準備】

○プレゼンテーションでは、要旨を総花的に述べるのではなく、修士学位請求論文の「売り」(社会福祉学研究等に寄与したと自己評価していること)、および修士学位請求論文第1次提出後に、報告会で出された意見や主査・副査から受けた助言に基づいて改善した点(改善できなかった場合はその理由)を中心に説明する。

○事前に「想定問答集(Q&A)」を作成し、審査委員から出される質問に、的確かつ簡潔に答えられるようにしておく。

- ・想定問答は、自己の修士学位請求論文の「売り」と弱点(全体的および個別的)、自分では重要だと思っているが時間の制約のためプレゼンテーションでは触れられなかったことを中心に、作成する。
- ・想定問答は最低限10~20個作成するのが望ましい。

2-9) 合同修士論文発表会での発表 3月上旬